教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 教授　　氏名： 中村　明美

研究分野	研究内容のキーワード
社会福祉学・保健学・特別支援教育	保健・医療ソーシャルワーク、子ども家庭福祉、特別支援教育
学位	最終学歴
博士（社会福祉学）、修士（社会福祉学）、学士（社会福祉学）	龍谷大学大学院社会学部研究科博士後期課程社会福祉学専攻修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.全学生のキャリア支援	2023年4月現在に至る	キャリア相談、企業見学・訪問、説明会などを行ない、学生の就職支援、及びキャリア支援を行っている。
2.mwu.jpを活用した遠隔教育	2020年4月から現在に至る	担当科目HPを作成し、講義動画作成し関連資料などを掲示し、配信した。mwu.jpのアプリを活用したフィールドバックシステムを構築した。学生には新たにオンライン授業方法の活用と習得につなげた。
3.PDCAサイクルを用いた講義の実施	2010年4月から現在に至る	毎回の講義で課題（レポート、感想、小テスト、コミュニケーションカードなど）の提出を求め、教員がチェックしコメントを記入することで、学生が自らのスキルや到達度を確認できるようにしている。これにより、学生の理解度を把握し、よりよいわかりやすい授業に役立てている。
4.授業外において、障害の特性に合わせた知識と支援技術、及び学習効果促進のための取組	2010年4月から現在に至る	合理的配慮について関心のある学生を対象に、授業外に障害の特性に合わせたコミュニケーションの方法、介助方法、福祉用具の活用、障がい者スポーツの実践、信頼関係の構築方法などの基本を教え、配慮が必要な子どもへの理解を深めることに努めている。
5.合理的配慮を要する人への支援技術やコミュニケーション能力のトレーニングを取り入れた取り組み	2008年4月から現在に至る	知識や技術の教授はもとより、車椅子の自走や介助の体験を通し学校周辺の道や公園、店舗などのバリアフリーについて考える。また、視覚障害、聴覚障害、身体障害、発達障害、高齢者などの体験学習を取り入れ、利用者の気持ちを考えるなどの自己覚知を深めている。さらに障害のある児童への自立支援に向けての具体的な支援方法を伝授している。
6.コミュニケーションシートを活用した講義	2008年4月から現在に至る	学生の質問・要望・意見等を質問紙や限定コメントなどに記述させ、次回の講義開始時に回答や資料を提示している。また、学生が毎回の講義で感じたキーワードを記入させ、学生の理解度と自らの講義目的の到達度合いを確認し、さらなる講義の展開を考察する材料の一つとして活用している。講義内容に対する学生の理解を深めている。
7.特別支援学校に就職予定の学生を対象に障害の特性に合わせた知識と支援技術を取り入れた講義	2008年4月から2020年	特別支援学校に就職予定の学生を対象に、授業外における学習効果促進のための取組を行っている。具体的には特別学期（10-11月）に障害の特性に合わせた実践技術として、コミュニケーション、介助方法、救急救命、福祉用具、感覚遊具などの実技について教授し、学生が合理的配慮を行えるように努めている。
8.初期演習や２年次演習においてアカデミック・スキルの養成	2006年4月から現在に至る	初期演習や２年次演習において、小グループごとに各自テーマを設定し、行政資料をはじめとする文献調査を指導し、デスカッションをもとに分析考察し、課題解決に向けた考えなどをまとめる。活発な議論を行うためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高める取り組みを実施。この過程を通して大学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		で学ぶための基礎力の養成を進めた。
9.「手話部」学友会活動の顧問として学生支援	2006年現在に至る	手話部の学生の活動への支援と、近隣小学校での難聴児学級「ことばと聞こえの教室」で絵本の読み聞かせの活動、特別支援学校での交流活動指導等を行う。また地域で手話の広報活動を行う。
10.担任業務	2006年から現在に至る	短教、大教、新教の担任業務を行なっている。個別相談では各学生の生活や状況を把握し、本人の意思や行動を尊重しつつ学生生活が充実するように支援・指導した。また、人生を主体的に生きるために、キャリア形成や意識啓発を行った。
11.卒業研究執筆に関わる情報収集と分析スキルの育成	2005年4月から現在に至る	各自が関心を持った現代の社会問題を研究題目を選定し、文献研究を基に、仮説設定、分析、考察などの指導を行なっている。
12.アクテブラーニングを取り入れた授業の実践	2005年4月から現在に至る	学生の自発的な学びを促すために、グループワークやディスカッション、プレゼンティションを実施し、学生同士の学びを深めるような取り組みを実施している。
13.ICTを活用したわかりやすい授業への取組	2005年4月から現在に至る	パワーポイントや視覚教材、動画等、ICTを活用した講義を展開し、学生の理解度を高める工夫をしている。
14.保育・教育実習等科目や演習科目で関連領域からの知識と技術の導入した取組	2005年4月から現在に至る	中村が積み重ねてきた社会福祉学、保健・看護学・公衆衛生学・介護学等の専門技術と知識とその研究は、特別支援教育学・保育・教育学に新たな情報提供や技術と知識を提供している。各分野を総括し得た知見と、エビデンスに基づいた教授は、学生の技術と知識の向上と学びの充実感を高めている。
2 作成した教科書、教材		
1.日本介護福祉士養成施設協会編テキスト全5巻手引書	2017年	日本の介護福祉士養成教員に向けて専門教育の教授のために、日本介護福祉士養成施設協会編テキスト全5巻を編集執筆し、それらの手引きを作成。 第1巻第2章「人間関係とコミュニケーション」、第3巻第1章「コミュニケーション技術」を執筆、第3巻コミュニケーションと生活支援技術Ⅰ、Ⅱ）の編集を行った。特に病気や障害者（児）等の介護を必要とする人を対象に領域別の教育（人間と社会・介護・こころとからだの仕組・医療的ケア）の内容をわかりやすく解説した。またICFの理念やエビデンスに基づく実践について解説している。国家試験問題にも対応させた。また、これらは中国全土の介護のテキストに採用されている。
2.「特別支援学校参加実習ハンドブック」武庫川女子大学	2008年から現在に至る	武庫川女子大学において、特別支援学校教育参加実習のための「特別支援学校参加実習ハンドブック」を毎年見直し再訂正を行う。
3.「特別支援学校実習ハンドブック」及び「実習記録」武庫川女子大学	2008年から現在に至る	武庫川女子大学の特別支援学校教育実習を行う学生を対象とした手引としての「特別支援学校実習ハンドブック」を作成する。内容は実習の目的、意義、実習の留意点、記録の書き方などである。毎年の見直し再訂正を行う毎年見直し再訂正を行う。
4.「保育実習ハンドブック」および「保育実習記録」武庫川女子大学	2005年から2015年まで	武庫川女子大学・短期大学部において、保育実習（保育所保育、施設保育、行政など）を行う学生を対象とした手引として「保育実習ハンドブック」を作成する。内容は保育の現状、保育実習の目的、意義、実習

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		目標、実習の留意点、記録の書き方などである。毎年の見直し再訂正を行う。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.令和５年度（第19回 ）第1回「ランチタイムミーティング　子育て交流―より働きやすい職場環境を作るために」の企画・運営、ファシリテーター兼子育て・家族相談支援	2023年7月21日	本学の事務局員を対象により働きやすい職場環境を作るために、子育て交流を行う。 主催：武庫川学院事務局人事部長男女共同参画室推進課開催（開催場所：本館4階会議室）
2.2023年度MUKOJO未来教育プログラムSOAR導入講義	2023年4月6日から4月7日	武庫川女子大大学・短期大学部の新入学対象のMUKOJO未来教育プログラムとして、新入生の全員を対象とした第2回（2023年度）MUKOJO未来教育プログラムSOAR事業で「ジェンダーとセクシュアリティ」の導入講義を行った（4回開催）。 武庫川女子大学・短期大学部　女性総合活躍研究所・MUKOJO未来教育プログラム開催（開催場所：公江記念講堂）
3.令和4年度（第18回 ）第1回「ランチミーティング－ 男性教職員の子育て －」交流会の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援	2023年3月	男性教職員を対象とした子育て交流会の企画・運営。高井弘弥先生とファシリテーター兼子育て・家族相談支援を行った。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催（開催場所：本館4階会議室）
4.令和4年度（第17回 ）第1回ランチタイムミーティング 「おとなのためのえほん タイム 」の企画・運営とファシリテーター	2022年7月22日（同日2回開催）	教育学科佐野友恵先生（絵本専門士）を講師に「おとなのためのえほんタイム」のファシリテーションを行う。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催（開催場所：本館4階会議室）
5.令和3年度（第16回 ）第1回「ランチミーティング－ 初めての男性教職員の子育て交流会 －」の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援	2021年12月17日	男性教職員を対象とした子育て交流会の企画・運営。宇佐美彰規先生とファシリテーター兼子育て・家族相談支援を行った。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催（開催場所：MM館1階国際センター内会議室）
6.第15回 「ランチミーティング」 第11回 「育児交流会」の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援	2021年2月26日	育児休業中の教職員のスムーズな復帰のフォローアップと育児情報交換と交流会の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援。人事課職員から復帰に向けての説明。感染拡大防止のためにオンライン参加も可能とした。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催（開催場所：認可外保育施設「ラビークラブ」）
7.第14回 「ランチミーティング 」 第10回「 育児交流会」の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援	2020年2月26日	育児休業中の教職員のスムーズな復帰のフォローアップと育児情報交換と交流会の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援。人事課職員から復帰に向けての説明。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催（開催場所：認可外保育施設「ラビークラブ」）
8.地域公開講座介護セミナーの司会とコメンテーター	2019年3月2日	武庫川女子大学男女共同参画室外部相談員濱渕美保子氏（ケアプランセンター京都八条代表）の「介護が必要な家族を支えるには～知っ得！外部サービス～」介護に関するシンポジウムの司会とコメンテーター。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催（開催場所：図書館2階フロア）
9.第13回 「ランチミーティング」 第9回 「育児交流会」企画・運営、ファシリテーター件相談支援	2019年2月26日	子育てに関する情報発信や、交流会の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援を行った。新たに妊娠している教職員も参加し妊娠・出産の不安軽減、育児休

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		業後の働き方など相談支援を行う。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催 （開催場所：本館多目的室）
10.第12回 ランチミーティング　第8回 育児交流会～かんたん工作　手提げバッグ＆かわいい切り紙　企画・運営、ファシリテーター兼相談支援	2019年2月26日	育児休業中の教職員のスムーズな復帰のフォローアップと育児情報交換と交流会の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援。人事課職員から復帰に向けての説明。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催 （開催場所：本館4階会議室）
11.第11回 ランチミーティング「絵本の読み聞かせ講座」の企画・運営、ファシリテーター	2018年7月18日	教育学科山下由佐先生「絵本で子育て～親子で絵本を楽しみましょう」で読み聞かせを講演、そのファシリテーターを行う。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催 （開催場所：本館4階会議室）
12.第10回 「ランチミーティング」　第7回 「育児交流会」の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援	2018年3月27日	子育てに関する情報発信や、交流会を企画・運営、ファシリテーター兼相談支援を行った。新たに妊娠している教職員も参加し妊娠・出産の不安軽減、育児休業後の働き方など相談を行う。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催 （開催場所：本館多目的室）
13.第9回 ランチミーティング 第6回 育児交流会 「絵本の読み聞かせ講座」企画・運営、ファシリテーター	2017年10月3日	教育学科非常勤講師の中山律子先生「絵本で子育て～親子で絵本を楽しみましょう」で読み聞かせを講演。そのファシリテーターを行う。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催 （開催場所：本館4階会議室）
14.第8回 「ランチミーティング」　第5回 「育児交流会」の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援	2016年6月29日	企画・運営、ファシリテーター兼相談支援。子育て中の教職員のなかま作りを目的とし開催。子育てに関する情報発信や、交流会を行った。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催 （開催場所：本館4階会議室）
15.第4回 「育児交流会」の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援	2016年3月8日	育児休業中の教職員のスムーズな復帰のフォローアップと育児情報交換と交流会の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援。武庫川学院内保育ルーム「ラビークラブ」の案内と、人事課職員から復帰に向けての説明の企画依頼。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催 （開催場所：本館４階多目的室）
16.兵庫県 子育て支援員研修「（放課後児童コース）専門研修」研修プログラムのコーディネイター兼 講師	2016年から2019年まで	兵庫県子育て支援員研修「（放課後児童コース）専門研修講師」の開設時の相談支援とコーディネイター兼講師。　講義科目「小児保健Ⅰ」「小児保健Ⅱ」 主催：兵庫県健康福祉部こども局こども政策課 開催場所：武庫川女子大学　兵庫県福祉人材研修センターなど
17.第3回 「子育てランチミーテイング」の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援	2015年11月24日	子育て中の教職員のなかま作りを目的とし開催。企画・運営、ファシリテーター兼相談支援を行う。「子育てメーリングリスト」を立ち上げ、子育てに関する情報発信や、育児用品のリサイクル活用を提案。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催 （開催場所：本館4階会議室）
18.第3回 「育児交流会と育児」 ＆ 第2回「 子育てランチミーティング」の企画・運営、ファシリテー	2015年7月24日	育児情報交換と子育てなかまとの交流の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援。育児休業中の教職員の

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
ター兼相談支援		スムーズな復帰のフォローアップを目的としている。子育てや職場復帰に向けて課題や悩みのある教職員の早期発見と支援を行い、離職率を下げることを目標としている。武庫川学院内保育ルーム「ラビークラブ」の案内と、人事課職員から復帰に向けての説明の依頼。 第3回 育児交流会は7月17日開催予定であったが悪天候のために育児＆子育てランチミーティングと同時開催した。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催（開催場所：本館４階会議室と多目的室）
19.第2回 「教職員のための育児交流会」の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援	2015年3月12日	育児情報交換と子育てなかまとの交流の企画・運営、ファシリテーター兼相談支援を行う。育児休業中の教職員のスムーズな復帰のフォローアップを目的としている。子育てや職場復帰に向けて課題や悩みのある教職員の早期発見と支援を行い、離職率を下げることを目標としている。武庫川学院内保育ルーム「ラビークラブ」の見学と案内と、人事課職員から復帰に向けての説明の依頼。 主催：武庫川学院事務局長男女共同参画室推進室開催（開催場所：学院内保育ルーム「ラビークラブ」）
20.兵庫県 子育て支援員研修「（地域保育コース）専門研修」コーディネイター兼 講師	2015年から2019年まで	兵庫県 子育て支援員「（地域保育コース）専門研修」の開設時の相談支援と研修プログラムのコーディネイター兼 講師。 講義科目「小児保健Ⅰ」「小児保健Ⅱ」「心肺蘇生法」 主催：兵庫県健康福祉部こども局こども政策課 開催場所：武庫川女子大学　兵庫県福祉人材研修センターなど
21.兵庫県 放課後児童支援事業「放課後児童支援員認定資格研修」研修プログラムのコーディネイター兼 講師	2015年から2019年まで	兵庫県 放課後児童支援事業「放課後児童支援員認定資格研修」の開設時の相談支援とコーディネイター兼 講師。　講義科目「児童虐待」「障害児への支援」 主催：兵庫県健康福祉部こども局こども政策課 開催場所：武庫川女子大学　兵庫県福祉人材研修センターなど
22.武庫川学院　事務局　男女共同参画室（人事部 男女共同参画参画課)の教職員及び学生の育児・介護・働き方相談支援事業	2013年から現在に至る	妊娠・出産や子育て、介護支援、各種ハラスメント、キャリアアップ、病気による職種支援、人間関係などに関する相談支援を実施。
23.KCJ GROUP株式会社　キッザニア甲子園において職員研修「知的・発達障がい児の支援」研修の講師	2013年から現在に至る	KCJ GROUP株式会社　キッザニア甲子園において職員研修「知的・発達障がい児の支援」の研修講師
24.セクシュアル・マイノリティ学生の個別相談支援	2006年から現在に至る	セクシュアル・マイノリティ学生の心身の不調、家族関係、就職活動などの個別相談支援に対応を行う。
25.合理的配慮を要する学生の相談支援とその対応（大学での環境調整）	2005年から現在に至る	学生の入学前から円滑に学生生活が過ごせるように相談支援や環境調整を行い、また入学後の資格取得、実習校との調整や合理的配慮事項などの相談や環境調整を行う。
26.特別な配慮を要する子どもの支援および指導、保育士等へのスーパーバイザー	2005年から現在に至る	附属幼稚園や保育所などで、特別支援教育・保育の対象児や特別な配慮（アレルギー対応など）が必要な子どもの支援および指導方法を指導、スーパービジョンの実施。 場所：附属幼稚園、附属保育園

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
27.独立行政法人国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校助産科非常勤講師	1998年4月から現在に至る	「母子の心理・社会学（旧「性と生殖」「ジェンダーとセクシュアリティ」）」の講義を助産師および、助産師養成課程の学生に教授。 場所：独立行政法人国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校助産科
4 その他		
1.高等学校での出前授業や模擬授業	2005年現在に至る	高等学校での出前授業や模擬授業 平成2012年9月　大阪府立高槻北高等学校から講師依頼「最近の保育と幼児教育の動向」について講義 平成2013年10月　兵庫県立姫路南高等学校から講師依頼「最近の保育の動向」について講義 平成2015年6月　兵庫県立加古川北高等学校から講師依頼「小学校教育の現状と展望」について講義 平成2016年12月　兵庫県立淡路三原高等学校から講師依頼「幼稚園教諭と保育士の役割と教育課程」について講義
2.保育士試験対策特別講座（「保育士 試験対策直前特別講座（前期）」「保育士 試験対策講座（特別学期）」	2005年から現在に至る。ただし2020年は感染防止のために中止	保育士試験対策特別講座（本学と関西大学の学生対象）では、学的に保育士を目指す学生のために「子ども家庭福祉」の特別講義を行っている。2006年からは6月から7月「保育士 試験対策直前特別講座」、特別学期には「保育士 試験対策講座」を行っている。2019年からは関西大学の学生も対象となり、2023年度からはMUKOJO+MOREの科目として実施している。
3.オープンキャンパスでの模擬授業や入学生及び父母への本学説明と受験相談	2005年から現在に至る	本学の特徴、学科の特徴などを説明し、生徒や父母の進路の悩みの相談を受けた。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.社会福祉士	2004年3月	第54452号
2.看護師	1984年3月	第10661号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.女性研究リーダー育成推進センター　研究環境整備部門リーダー	2023年4月から現在に至る	
2.武庫川女子大学 教学局　女性総合活躍研究所ジェンダー・平等部門 研究員	2023年4月から現在に至る	2023年度からの新部門「ジェンダー平等推進部門」を担当する。ジェンダー平等に関する研究と推進、及び女性のウェルビーイングの維持と向上に資する本学教育体系の提案と開発を行う。
3.武庫川学院　事務局　人事部　男女共同参画推進課専門員　　育児・介護・働き方学内相談員	2023年4月から現在に至る	武庫川学院の教職員と学生の保育や介護、働き方などの相談支援を行う。本学の教職員のニーズ調査を実施。また、企業内保育事業、企業型保育施設や企業所内保育事業、学童保育、外部委託による地域児童育成拠点事業などの検討、企画を行う。本学が運営している認可外保育施設の設置と運営業務（毎年の認可外保育所整備運営報告書の作成と、監査、研修など）を担当している。研究支援員制度の企画・導入・運営。「一般事業主行動計画」の策定。「くるみん」「えるぼし」の認定、「生活と仕事の調和」に関する推進のための環境整備などの企画運営。育児・介護、働き方に関するセミナーやランチミーティング、交流会の企画運営。全教職員対象のワークライフバランス調査としてのアンケート調査（3年に1回）ワークライフバランスガイドブックを作成する
4.武庫川女子大学 教学局　MUKOJO未来教育プログラム	2022年4月から現在に至る	MUKOJO未来教育プログラムSOARの導入教育および共通

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
SOAR委員会		教育科目についての検討。入学時導入講義の講師「ジェンダーとセクシュアリティ」講演担当
5.学校法人武庫川学院　認可外保育施設ラビークラブ（男女共同参画推進室内）の保育研修	2020年から現在に至る	学校法人武庫川学院　認可外保育施設ラビークラブ関係者（男女共同参画推進室職員内、保育者など）の保育研修として、児童相談所の役割や児童虐待についての研修実施
6.宝塚市男女共同参画推進審議会委員（学識経験者）	2018年から現在に至る	宝塚市における男女共同参画推進に関する審議会委員
7.京都府社会福祉審議会委員（学識経験者）	2018年から現在に至る	京都府における京都府社会福祉審議会の児童福祉専門分科会 措置審査部会と保育所審査部会の専門委員
8.受験生と家族からの入試相談援助	2015年から2018年まで	入試広報担当業務として、合理的配慮を必要とする学生、または受験生と家族からの入試相談援助と、入学後の合理的配慮等教育環境説明とその環境調整。また入学試験時の合理的配慮の対応を行っている。
9.イギリスのロンドン、シェフィールドでの医療ソーシャルワークの現地調査、フィンランドでの緩和ケアの現地調査	2014年9月	平成24年から26年度　科学研究費補助金（基盤研究(C)）採択 研究分担者　研究課題「退院支援における患者参加の規定要因に関する質的研究のギリスのロンドン、シェフィールド調査
10.育児休業中の教職員を対象として、スムーズな職場復帰のためのランチセミナーやミーティング	2014年から現在に至る	育児休業中の教職員のスムーズな職場復帰を目的として育児交流会を年1回開催、ランチミーティングを年に2-4回開催。子育て期の教職員の交流や離職率の軽減をを目的として開催。2017年からは男性を対象としランチミーチングやセミナーを実施している。また介護している教職員の交流も実施。
11.武庫川女子大学　事務局　男女共同参画推進委員	2013年4月から現在に至る	本学の教職員の育児・介護、働き方相談支援を行う。育児ニーズ調査を実施し、企業所内保育事業、病後時保育事業、ベビーシッター派遣事業などの保育事業などを企画・運営。研究支援制度介護者支援の運用。育児・介護、働き方に関するセミナーやランチミーティング、交流会の企画運営。全教職員対象のワークライフバランス調査としてのアンケート調査（3年に1回）ワークライフバランスガイドブック（初版）の作成、一般事業主行動計画の策定。育児介護の相談業務などを担当など
12.武庫川学院　事務局　男女共同参画推進室専門員 育児・介護・働き方学内相談員	2013年4月から2023年3月	武庫川学院の教職員と学生の保育や介護、働き方などの相談支援を行う。本学の教職員のニーズ調査を実施。また、企業内保育事業、企業型保育施設や企業所内保育事業、学童保育、外部委託による地域児童育成拠点事業などの検討、企画を行う。本学が運営している認可外保育施設の設置と運営業務（毎年の認可外保育所整備運営報告書の作成と、監査、研修など）を担当している。研究支援員制度の企画・導入・運営。「一般事業主行動計画」の策定。「くるみん」「えるぼし」の認定、「生活と仕事の調和」に関する推進のための環境整備などの企画運営。育児・介護、働き方に関するセミナーやランチミーティング、交流会の企画運営。全教職員対象のワークライフバランス調査としてのアンケート調査（3年に1回）ワークライフバランスガイドブックを作成する。
13.教職員の育児休業終了後の職場復帰支援	2013年から現在に至る	保育ルーム託児事業（2013年から2020年3月まで）から、2020年4月から認可外保育施設において、2.3月に教職員の育児休業終了後の職場復帰支援として、スムーズに職場復帰できるように個別相談、なかま作り、本学のサービスの紹介、社会資源の説明を行う。人事課にも協力を得て開催。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
14.学校法人武庫川学院内 保育ルーム託児事業ラビークラブ運営担当	2013年から2019年3月	保育ルーム託児事業により、教職員、学生の子どもを一時預かり運営、している。育児ニーズ調査を実施し、事業内保育事業・企業所内保育事業、小規模保育事業などの保育事業などを企画、検討したが、現在の状況で運営を継続する。 なお、同事業は2020年4月から認可外保育施設として開設する。
15.武庫川女子大学 教学局　女性研究者研究活動支援事業　育児・介護支援部門　育児コーディネーター	2011年4月から2013年3月	武庫川学院の教職員と学生の一時預かり保育事業などニーズ調査と相談支援業務。また、奈良女子大学との提携による奈良っこネットの検討。一時預かり保育事業の企画運営。研究支援員制度の企画・導入・運営。「生活と仕事の調和」に関する推進のための環境整備など。
16.武庫川女子大学　女性研究者研究活動支援事業　育児・介護支援部門　育児相談員	2011年2月から2013年3月	本学の教職員の育児・介護のニーズ調査の実施、セミナーの企画運営、ワークライフバランスガイドブック（初版）の作成、育児介護の相談業務などを担当
17.イギリスのロンドンとシェフィールドでの緩和ケア・ホスピスケア、及び医療・福祉領域の現地調査	2009年5月	平成19年度から平成21年度　科学研究費補助金（基盤研究(B)）研究分担者 研究課題名「医療・社会福祉連携による早期退院・地域移行推進と不必要な入院・入院回避研究のためロンドンとシェフィールド現地調査
18.武庫川女子大学 附属保育所設置委員・運営委員	2008年4月2018年4月まで	武庫川女子大学 附属保育所設置委員・運営委員
19.学生の合理的配慮事項や学校生活の環境調整	2008年から現在に至る	学生の入学前から円滑に学生生活が過ごせるように相談や環境調整を行い、また入学後の資格取得、実習校との調整や合理的配慮事項などの相談や環境調整を継続して行う。
20.医療社会福祉連携研究会の企画運営	2008年から2016年	福祉、医療施設の実践者や研究者による医療社会福祉と各機関を連携について問題解決に向けた研究会
21.介護教育研究会の企画運営	2006年から2017年	介護教育につていの研究会　研究会会計担当
22.イギリスのロンドンとシェフィールドでの緩和ケア・ホスピスケア、及び医療・福祉領域の現地調査	2005年9月	平成16年度から18年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）採択 テーマ「イギリスにおける医療・福祉サービス連携による質確保と予算確保管理システムに関する研究」のイギリスのロンドンとシェフィールドの現地調査
23.実務経験ルート600時間要請課程の実施に関する研究会	2005年4月から2010年3月	研究者と実務者による実務経験ルート600時間要請課程の実施に関する研究会
24.障害のある学生とその家族との相談支援、また家族の介護をしている学生の相談支援	2005年児から現在に至る	学生の意思とペースを尊重した障害の受容の支援、キャリア支援などの相談支援を行う。また家族の介護をしている学生の相談支援を行う。
25.保育士試験対策特別講座	2005年から現在に至る。（ただし2020年は感染防止のために中止）	本学の全学生の中で保育士を目指す学生のための保育士国家試験 試験対策講座に「子ども家庭福祉」「社会福祉」の特別講義を行っている。特別学期には「保育士 試験対策講座」を、2006年からは6月から7月に「保育士 試験対策直前特別講座」を行っている。2019年からは関西大学の学生も対象となり、2023年度からはMUKOJO+MOREの科目として実施
26.特別な配慮を要する子どもの支援および指導、スーパーバイザー	2005年から現在に至る	附属幼稚園や保育所などで、特別支援教育・保育の対象児や特別な配慮（アレルギー対応など）が必要な子

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		どもの支援および指導方法を指導、スーパービジョンを行っている。
27.手話部の顧問	2005年から現在に至る	「手話部」の顧問 近隣小学校での難聴児学級「ことばと聞こえの教室」で絵本の読み聞かせの活動、特別支援学校での交流活動指導等を行う。また地域で手話の広報活動を行う。
28.イギリス医療福祉研究会　企画・運営委員	2003年9月から2018年3月	福祉、医療施設の実践者や研究者によるイギリスの医療福祉についての研究会
29.院内医療ソーシャルワーカー　スーパーバイザー	2000年4月から2002年3月	赤穂市民病院と関西福祉大学共同プロジェクト医療ソーシャルワーカー養成研修及び院内医療ソーシャルワーカー設置　スーパーバイザー
30.フィンランド国立オーボ・ アカデミー大学 社会政策学部社会政策学科留学	1994年9月から1996年1月	フィンランド国立オーボ・ アカデミー大学 社会政策学部社会政策学科にて、社会政策として児童家庭福祉や医療福祉などを学び、研究する。
31.オーストラリアビクトリア州 特別支援学校・社会福祉施設研修	1989年8月から1989年10月	研修施設：Glen Waverley Special School, Knox Special Care Centerなどで教育・福祉・看護研修を行う。
4 その他		
1.武庫川女子大学全学教育センター準備委員	2024年から現在に至る	
2.事務局　人事部　男女共同参画推進専門員	2023年4月から現在に至る	男女共同参画に関する業務 「一般事業主行動計画」の策定。「くるみん」「えるぼし」の認定、「生活と仕事の調和」に関する推進のための環境整備などの企画運営
3.武庫川女子大学 新しい武庫女教育推進委員会委員	2023年4月から現在に至る	新しい武庫女教育推進委員会の委員
4.武庫川女子大学 教学局　キャリアセンター次長	2023年4月から現在に至る	キャリア教育と支援に関する業務
5.性の多様性検討ワーキング委員	2023年1月から現在に至る	本学院での「性の多様性」に関する検討業務 （男女共同参画室、女性活躍総合研究所による）
6.教育学部紀要編集委員	2022年4月現在に至る	教育学部の紀要「教育学研究論集」編集業務
7.女性活躍総合研究所　ジェンダー平等部門員	2022年4月から現在に至る	
8.女性活躍総合研究所　SOAR委員	2022年4月から現在に至る	MUKOJO未来教育プログラムなどに関する業務
9.男女共同参画推進室　専門員　学内相談員	2014年4月から2023年3月	教職員および学生の相談支援
10.武庫川女子大学 教学局　FD推進委員	2014年4月から2016年3月	FD推進に関する業務
11.武庫川女子大学 教学局　入試広報委員	2013年4月から2015年3月	入試広報に関する業務
12.武庫川女子大学 教学局 女性研究者支援所センタープロジェクト推進委員会	2011年4月から2015年3月	女性研究者研究活動支援事業 に関する委員会活動

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.児童・家庭福祉［第2版］	共	2025年3月	ミネルヴァ書房	第9章「母子保健に関する支援と対策」を執筆。 著者：中村明美 編者：立花直樹　中村明美　渡邊慶一　鈴木晴子他
2.特別支援教育と障害児の保育・福祉 - 切れ目や隙間のない支援と配慮 -	共	2023年5月	ミネルヴァ書房 （324ページ）	エピローグ「特別な支援や配慮を要する児童の支援の動向と展望」を執筆。 日本のノーマライゼーションの実践と多様性を認めた共生社会の実現に向けての国際的な動向を述べ、共生社会の実現に向けての課題を示唆した。(pp.295-303)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				著者：中村明美　高井弘弥他 編者:立花直樹　中村明美　松井剛太　井上和久　河﨑美香
3.新版　保育・幼児教育のフロンティア	共	2022年5月	晃洋書房 (177ページ)	33.「幼児教育のフロンティア」の第二版として、法・制度や施策改正に伴い、内容を変更し、追加補充し、第9章「幼保連携型認定こども園教育・保育要領の構成と内容」を執筆。 平成30年に施行された幼保連携型認定こども園の教育・保育構成から4年経過した保育・教育実践の現状と課題を述べた。保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領など保育教育機関と連動て子どもの育ちを保障するための提言を行った。(pp.74-81) 著者：中村明美　永野典詞他　編者 : 伊藤良高他
4.児童・家庭福祉 - 子どもと家庭の最善の利益 -	共	2022年3月	ミネルヴァ書房 (256ページ)	第9章「母子保健に関する支援と対策」を執筆。公衆衛生や児童福祉法などを関連付けて、地域保健と保健サービスなどの母子保健について述べる。母子をだけではなく、家族を含めての保健サービス、ワーク・ライフ・バランス、就労・経済的支援を述べている。 (pp.108-117) 著者：中村明美　高井弘弥他 編者：立花直樹　中村明美　渡邊慶一　河﨑美香
5.児童・家庭福祉 - 子どもと家庭の最善の利益 -	共	2022年3月	ミネルヴァ書房 (256ページ)	コラム「フィンランドの保健サービス（ネウボラ）」を執筆。妊娠から子育て期の継続した支援としてネウボラを紹介し、自らがフィンランドで子育てをした体験を述べ、日本の母子保健の課題を示した。(pp.117-119) 著者：中村明美　高井弘弥他 編者：立花直樹　中村明美　渡邊慶一　河﨑美香
6.保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞書	共	2021年6月	ミネルヴァ書房 (587ページ)	第4部 第48章 「子ども家庭福祉の現代的テーマ 」の編集代表者中村明美(pp.559-572) 福祉・保育・教育分野を学ぶ学生や就労者に向けてわかりやすい用語辞典として編集している。 分担執筆の項目は、次の10項目「セックス/セクシュアリティ」「インターセックス」「SOGI/LGBT」「トランスジェンダー/Xジェンダー」「ピアサポート」「死亡時画像診断（Ai)」「見守り活動」を執筆。(pp.559-572) 著者：中村明美　崎山ゆかり　中尾賀要子　磯部美良　藤野ゆき　尾関唯未　明柴聰史　西尾亜希子 第48章編者：中村明美　編集委員 : 立花直樹　中坪史典　山下文一他
7.単身高齢者の見守りと医療をつなぐ地域包括ケア	共	2020年1月	中央法規出版 (298ページ)	第20章「地域がんサロンにおけるがん患者同士の見守りに関する研究」を執筆。 島根県と奈良県の地域がんサロンのインタビュー調査を行い、両県の地域がんサロンの実態明らかにし、がん患者同士の見守りの可能性を明らかにした。(pp.254-268) 著者：中村明美　越智あゆみ　杉崎千洋他 編者：杉崎千洋　小野達也　金子努他
8.障害児の保育・福祉と特別支援教育	共	2019年9月	ミネルヴァ書房 (304ページ)	エピローグ「共生社会（インクルージョン）の実現のための保育・福祉・教育の実戦に向けて」を執筆。資料「子どもの保育・福祉・教育に関するあゆみ」の年表を作成執筆。ノーマライゼーションからソーシャル・インクルージョン、そして多様性を認めた共生社会の実現に向けての国際的な動向と、それに追随する日本の保育・福祉・特別支援教育を述べ、共生社会の実現に向けての課題を示唆した。保育・福祉・教育の理解を深める為に、世界情勢、配慮を要する子どもの施策、関連法令、子どもの権利に関する国際機関の歴史を整理し、年表として作成した。(pp.279 -299) 著者：中村明美　高井弘弥　中尾賀要子他 編者：立花直樹　中村明美

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
9.障害児保育	共	2018年5月	晃洋書房 (268ページ)	第4章「ソーシャルワーク」を執筆。 保育現場での障害児・家族、保護者支援の基盤となるソーシャルワークの援助理論と基本的技術について述べた。また事例を分析しながらソーシャルワーク実践が深められる解説を行う。(pp.228-235) 著者：中村明美　高井弘弥　宇野里依他　編者 ： 鶴宏史
10.保育・幼児教育のフロンティア	共	2018年4月	晃洋書房 (163ページ)	第10章「幼保連携型認定こども園教育・保育要領の構成と内容」を執筆。 平成30年に施行された幼保連携型認定こども園の教育・保育構成とその特徴を述べた。特に、保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領から子どもの育ちを保障するための提言を行った。(pp.77-84) 著者： 中村明美　永野典詞他　編者:伊藤良高他
11.児童家庭福祉論（第2版）	共	2017年3月	ミネルヴァ書房 (241ページ)	28.「母子保健と児童の健全育成」の第二版として、法・制度や施策改正に伴い、内容を変更し、再執筆した。 第9章「母子保健と児童の健全育成」を執筆。児童福祉法改正に伴い、地域保健と保健サービス、および児童健全育成について再執筆した。母子保健は母子だけを対象とするのではなく、父親や生徒・学生も含め、全ての人への保健サービスと捉え、さらに就労・経済的支援も含めて述べている。（pp.130-140） 著者： 中村明美　辰巳隆他　編者：波多埜英治、立花直樹
12.教育と福祉の課題（第2版）	共	2017年3月	晃洋書房 (233ページ)	「26.教育と福祉の課題」の第二版として、障害者の権利条約批准と教育関連法の改正に伴いをにより改訂し、第8章「障害児保育・教育と福祉を包括した支援 -多職種連携による自立の共通理解への試み-」を執筆 。「特別支援学校指導要領等（幼・小・中・高等部）」をもとに自立の概念を整理し、自立活動の実践方法を提示した。また、病気の子どもの社会参加へ向けた自立の基盤づくりになることを提示した。(pp.95-105) 著者： 中村明美　小野田正利　塩野谷斉　永野典詞他　編者 ： 伊藤良高他
13.児童家庭福祉論(第2版)	共	2017年3月	ミネルヴァ書房 (241ページ)	28.「母子保健と児童の健全育成」の第二版として、法・制度や施策改正に伴い、内容を変更し、再執筆。 コラム「イギリスの学校教育における薬物乱用防止に関する教育」から、日本での児童の薬物防止教育について課題を示した。（pp.140-141） 著者： 中村明美　辰巳隆他　編者：波多埜英治、立花直樹
14.日本介護福祉士養成施設協会編テキスト全5巻手引書	共	2017年3月	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会　株式会社ファーストワン (182ページ)	第1巻第2章「人間関係とコミュニケーション」を執筆。(pp.8-12) 第3巻第1章「コミュニケーション技術」（pp.68-75）を執筆。 第3巻コミュニケーションと生活支援技術Ⅰ、Ⅱ）(pp.68-99)の編集担当。 介護福祉士を養成する教員や学生に向け、日本介護福祉士養成施設協会編全5巻テキストを、領域別教育（人間と社会・介護・こころとからだの仕組・医療的ケア）に則した内容について、わかりやすく解説した・特に障害者（児）や疾病者（児）、高齢者等への介護をＩＣＦ理念やエビデンスに基づく実践について解説した。さらに国家試験問題にも対応させた。 著者：中村明美　田中博一　小坂淳子他　編集者 ： 日本介護福祉士養成施設協会
15.教育学への招待	共	2015年4月	武庫川女子大学出版部 (159ページ)	第二部７「子どもの福祉と教育」を執筆。 児童の権利条約に至るまでの世界情勢、そして日本が批准するまでの歴史、そして権利条約について概説した。また現在の小学校教育

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				現場で起こっている事例をもとに、子どもの権利と義務について述べた。教育・保育者が子どもの権利保障の在り方を示唆した。 （pp.68-71） 著者：中村明美　武庫川女子大学文学部教育学科教員
16.児童家庭福祉論	共	2015年3月	ミネルヴァ書房 (209ページ)	第9章「母子保健と児童の健全育成」を執筆。戦前後の女性と子どもの地域保健の歴史を述べ、現代の母子保健を子ども・母親・父親を中心に全ての年代に必要な保健サービスについて説明した。また子どもが地域で健全に生活するために、学校と地域が行っている事業について説明し、さらに危険ドラックや飲酒、喫煙等の問題をあげ、子どもの健やかな成長を支えるための役割について明らかにした。(pp.130-141) 著者：中村明美　辰巳隆他　編者：波多埜英治　立花直樹
17.教育と福祉の課題	共	2014年8月	晃洋書房 (245ページ)	第8章「障害児保育・教育と福祉を包括した支援 -多職種連携による自立の共通理解への試み- 」を執筆。 障害児の学習指導要領等の中から自立の捉え方を考察する。「特別支援学校指導要領等（幼・小・中・高等部）」を中心に考えるが、発達の連続性を考慮し、乳幼児期の「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」小学期の「小学校学習指導要領」の自立の捉え方も参考にした。(pp.95-105) 著者：中村明美　小野田正利　塩野谷斉　永野典詞他　編者：伊藤良高他
18.人間の尊厳と自立/社会の理解	共	2014年7月	法律文化社 (260ページ)	第2章「人間関係とコミュニケーション」を執筆。第1節「人間関係の形成」は人間関係を形成するために重要なコミュニケーションの意味、目的、仕組み等を述べる。第2節「コミュニケーションの基本」では、コミュニケーションの基本として､自己覚知、自己開示、自己提示、自己理解の方法を説明した。また他者理解の基本として、受容、傾聴、共感について述べた。さらに対人援助を行う上で、必要なツールや実際の支援技術を明示し、人間尊厳のためのコミュニケーションの意味を論じた。（pp.73-87） 著者：中村明美　白井三千代　馬込武志他 編者：田中博一　小坂淳子
19.コミュニケーション技術/生活支援技術 Ⅰ・Ⅱ	共	2014年3月	法律文化社 (294ページ)	第1章「コミュニケーション技術」第2節「利用者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際介護」7.「福祉用具を用いたコミュニケーション」を執筆。 コミュニケーションを支援する機器や道具を紹介し、その意義と具体的な事例を説明し、福祉用具が果たすコミュニケーションの意味を考えた。（pp.40-46） 著者：中村明美　米津三千代　小坂淳子他 編者：中村明美　岩井惠子　井上千津子
20.コミュニケーション技術/生活支援技術 Ⅰ・Ⅱ	共	2014年3月	法律文化社 (294ページ)	第1章「コミュニケーション技術」第1節「介護におけるコミュニケーションの基礎」を執筆。 介護におけるコミュニケーションの目的、仕組みを明らかにした。さらに、コミュニケーション実践を具体的に呈示した。（pp.1-11） 著者：中村明美　白井三千代　小坂淳子他 編者：中村明美　岩井惠子　井上千津子
2 学位論文				
1.患者主導型がんサロンの効果に関する実証的研究（博士学位論文）	単	2023年3月	龍谷大学大学院社会学研究科	患者主導型がんサロンの効果を実証的研究により明らかにする。 2010年から2019年までの期間にがん患者の会話から話題の類型化を行い、実態や効果の実証的研究を行った。調査対象はがんサロン発祥地の島根県の17か所のがんサロンと参加者のがん患者。患者主導型がんサロンは有用性があることを評価するに至った。新たな研究手法を開発し、がんサロンの効果を測定したことが、本論文の大き

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
				な意義である。
3 学術論文				
1.全国のがんサロンの現状	単	2025年3月	武庫川女子大学学校教育センター紀要　第10号(14ページ)	がんサロンの実態把握の基礎資料として、全国で開催されているがんサロンの開設数や開催場所などを明らかにし、分析には都道府県発行のがん情報冊子や都道府県ホームページ、都道府県が委託しているがん患者支援等の団体の情報を用い分類した。中村明美　(pp.163-176) 査読あり
2.患者主導型がんサロン参加するがん患者の話題の類型化ー在宅で生活するがん患者に焦点をあてて ー（査読付）	単	2023年3月	教育学研究論集第18号　武庫川女子大学　教育学部（8ページ）	患者主導型がんサロンに参加するがん患者の会話を基に話題を類型化した。医療関係者の相談業務になかった新たながん患者の話題の類型として「肯定的な心情」「同病者との交流」「サロン外の同病者への配慮」の3つを大分類に加え、新たに14大分類と43中分類に類型化した。患者主導型がんサロンにはがんという経験を通し,病気とともに歩むための生活上の創意工夫など,同病者同士の経験による知の共有と蓄積の活用という同病者支援ならではの支援機能が示唆された。 中村明美　(pp.24-31) 査読有り
3.教員養成課程における医療的ケア の教育課程と指導法ー教育体制の 歴史的背景と課題をふまえてー（査読付）	共	2020年3月	武庫川女子大学 学校教育センター年鑑 第５号（9ページ）	医療的ケアを要する児童が増加し、法改正等の法整備がなされて以降、医療的ケア児の教育の保障意識が大きく変化している。しかし、進歩し続ける医療と保育や教育の現場での対応には依然格差が残つており、教員養成課程での医療的ケア等に関する指導は整理されていない。肢体不自由や病弱に関する特別支援教育課目を含めた教員養成課程での指導法についての課題を検討するため、学校における医療的ケアの歴史的背景と本学での医療的ケアに関する講義構成等を報告する。宇野里紗　中村明美　橋詰和也　高井弘弥（pp.89-P97）査読有り
4.がんサロンにおける話題の類型化	単	2019年10月	日本公衆衛生学会第66巻第10号特別附録集（日本公衆衛生学会）（1ページ）	がんサロンの参加者の話題を類型化した。その結果、従来の11の大分類に加え新たに3つの大分類が抽出され、新たに計14の大分類と42の中分類を類型化した。これらの話題は、医療機関が行う相談にはなかったことからサロンの特徴と捉えることができる。今後、本研究の試みとして類型化した結果を引き続き検証する。共同研究者:中村明美　安西将也(p.335) 査読有り
5.島根県におけるがんサロンの実態研究（査読付）	単	2019年3月	教育学研究論集第14号　武庫川女子大学　教育学部（8ページ）	島根県におけるがんサロン（約２５カ所）の実態調査の第１報として、200隣接する２医療圏のがんサロンの実態を明らかにし、サロン運営やサロンの役割と、その課題を明らかにした。(pp.48-55)　査読有り
6.癌患者の生活課題を可視化する試み　-島根県癌サロンの参与分析から-	単	2018年10月	日本公衆衛生学会第65巻第10号特別附録集（日本公衆衛生学会）（1ページ）	がんサロン参加者が共有する話題を可視化し、癌患者支援のあり方の検討を行う。医療機関等の相談支援では、疾病の治癒を目指した相談内容が多いが、癌患者は生活上の悩みや気持ちの受け止め等生活相談支援を求めていることが明らかになった。またライフイベントに関わる話題も多いことからソーシャルワークの視点を用いた相談支援の必要性が示唆された。共同研究者:中村明美　安西将也　審査有り　(p.304)
7.特別支援学校教育実習指導の提言と展望（査読付）	共	2018年3月	武庫川女子大学学校教育センター年鑑　第3号（10ページ）	私立大学における5年間の特別支援学校実習指導及び実習の現状と課題を抽出し、過去３年間の学生の記録である実習報告書による学生の自己評価の記載内容をレスポンデンス分析による解析をし、実習指導の講義カリキュラム構成と内容など実践力養成のための教育実習の在り方について提言を行う。(pp.23-32)　中村明美　高井弘弥　橋詰和也　宇野里砂　査読有り
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.がんサロンにおける	共	2019年10月	日本公衆衛生学会	がんサロンの参加者の話題を類型化した。その結果、従来の11の大

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
話題の類型化			第78回学会総会『日本公衆衛生学会第66巻第10号特別附録集』(1ページ)	分類に加え新たに3つの大分類が抽出され、計14の大分類と42の中分類に類型化された。これらの話題は、医療機関が行う相談にはなかったことからサロンの特徴と捉えることができる。今後、類型化した結果を引き続き検証していく。共同研究者：中村明美　安西将也
2.地域におけるがん患者の見守りシステムに関する研究 -がんサロン参加者と宗教者との関わり-	共	2019年9月	日本仏教社会福祉学会第54回学術大会・発表要旨集（浅草寺・浅草寺普門会館）(2ページ)	宗教者が参加するがんサロンの実践報告と、サロン参加時に宗教者の有無によって参加者の話題は、宗教や宗教行事に関すること、亡くなった人への思いなどが表出されやすくなることが示唆された。また地域において宗教者は重要ながん患者・家族の見守り活動も担えることが提示された。(pp.36-37) 共同研究者：中村明美　栗田修司
3.がん患者の生活課題を可視化する試み -島根県癌サロンの参与分析から-	共	2018年10月	日本公衆衛生学会第77回学会総会『日本公衆衛生雑誌第77回日本公衆衛生学会総会抄録集』(1ページ)	癌サロン参加者が共有する話題を可視化し、癌患者支援のあり方の検討を行う。医療機関等の相談支援では、疾病の治癒を目指した相談内容が多いが、癌患者は生活上の悩みや気持ちの受け止め等生活相談支援を求めていることが明らかになった。またライフイベントに関わる話題も多いことからソーシャルワークの視点を用いた相談支援の必要性が示唆された。共同研究者：中村明美　安西将也(p.304)
4.糖尿病予備群に対する訪問指導によるうつ症状改善効果及び飲酒の行動変容効果分析	共	2017年10月	日本公衆衛生学会第76回学会総会『日本公衆衛生学会第64巻第10号特別附録集』(1ページ)	糖尿病予備群に対する訪問指導によるうつ症状改善効果及び飲酒の行動変容効果分析をした。分析結果より、継続した個別訪問指導によりうつ症状の改善効果と飲酒の行動変容効果が期待できることが示唆された。無関心期にあった者に効果がなかったことから、今後は個別訪問指導に加え、地域におけるソーシャルサポートネットワーク作りの必要性を示唆した。 共同研究者：中村明美　矢野真友美　井上辰樹　安西将也
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.特別支援教育と障害児の保育・福祉 - 切れ目や隙間のない支援と配慮 -	共	2023年5月	ミネルヴァ書房（324ページ）	巻末　資料「子どもの保育・福祉・教育などに関するあゆみ」」を執筆。 保育・福祉・教育の理解を深める為に、「世界情勢」「配慮を要する子どもの施策」「関連法令」「子どもの権利に関する国際機関の歴史」を整理・まとめた事柄を年表として示した。(pp.306-317) 著者：中村明美　高井弘弥　他 編者:立花直樹　中村明美
2.SOAR導入講義ハンドブック	共	2023年3月	武庫川学院共同参画推進室と武庫川女子大学女性総合活躍研究所	ジェンダーとセクシュアリテーを執筆。ジェンダーとセクシュアリテーの概要を述べれ、入学生に武庫川女子大学での学びの価値について述べた。 中村明美(pp.7-8)
3.特別支援教育と障害児の保育・福祉	共	2023年	ミネルヴァ書房	編者 （再掲ため略）
4.学生の夢や希望、卒業後の未来をまもる介護支援	単	2022年10月	武庫川学院共同参画推進室　News Letter　Vol.15 2022年　(4ページ)	学生の介護者（ケアラー）の相談内容と男女共同参画推進室での相談支援の実際。教職員と共有したいことを報告する
5.児童・家庭福祉 - 子どもと家庭の最善の利益 -	共	2022年	ミネルヴァ書房	編者 （再掲ため略）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6.VOICE	単	2021年4月	武庫川学院共同参画推進室　News Letter　Vol.12 2021年	子育てと介護のダブルケアを行いながら就労を継続してきた体験記（p.1）
7.武庫川学院 ワーク・ライフ・バランス ハンドブック 2021	共	2021年	武庫川学院　男女共同参画推進室	編集と執筆。学内外の育児・介護関連事業などの情報提供を行いより良い働き方について意識啓発を行うことを目的。病気および障害児・者のサービス」「出産・育児と仕事」を執筆。国の制度や地方自治体のサービス、病気の子どものサービス、障害児･者等の支援について記述した。個人が仕事と子育て、介護、休息のバランスをとり、生活することの重要性を提示した。（pp.19-44）共同執筆者：中村明美　中尾賀要子　宇佐美彰規　私市佐代美他
8.保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞書	共	2021年	ミネルヴァ書房	第4部 第48章 「子ども家庭福祉の現代的テーマ 」 編集者 （再掲ため略）
9.障害児の保育・福祉と特別支援教育	共	2019年9月	ミネルヴァ書房（304ページ）	資料を執筆。保育・福祉・教育の理解を深める為に、世界情勢、配慮を要する子どもの施策、関連法令、子どもの権利に関する国際機関の歴史を整理し、年表として作成した。（pp.279-299） 著者：中村明美　高井弘弥　中尾賀要子他 編者：立花直樹　中村明美
10.障害者の保育・福祉と特別支援教育	単	2019年9月	ミネルヴァ書房	編者 （再掲ため略）
11.ワークライフバランスガイドブック2017	共	2017年5月	武庫川学院　男女共同参画推進室	編集と執筆。学内で実施されている育児・介護関連事業や講座などの情報を収集し、本事業の取組みについて意識啓発を行う。 病気および障害児・者のサービス」「出産・育児と仕事」を執筆。国の制度や地方自治体のサービスをわかりやすく解説した。病気の子どものサービス、障害児･者のサービス、病児や障害児･者を養育する親・きょうだい等の支援について記述した。また、看取りの心理的援助方法、終活についても記載した。個人が仕事と子育て、介護、休息のバランスをとり、生活することの重要性を提示した。 （pp.19-44）共同執筆者：中村明美　中尾賀要子　大山冨美子他
12.武庫川女子大学女性研究者支援センター事業活動報告書 平成26年1月～平成27年3月	単	2015年3月	武庫川女子大学女性研究者支援センター	報告書を執筆する。武庫川女子大学女性研究支援センター育児・介護支援部門にて、保育サービスの様々な制度と本学の育児支援の現状と課題について執筆する。(pp.37-43) 文部科学省 科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」（平成24年度～平成26年度）による。
13.育児・介護に関する実態調査調査報告	共	2014年4月	女性研究者支援センター	本学教職員全員を対象とした育児・介護に関する実態調査（2013年９月実施） 本調査の分析から、7つの課題が上がり適切な対応が急務であることが確認できた。 「1.委員会業務の免除もしくは軽減」「2.入試や地方教育懇談会といった宿泊等を伴う学院業務の軽減」「3.復帰後の役職や配属先に関する要望の尊重」「4.短時間労働の活用による会議等を含む就労時間の積極的な調整」「5.休暇取得等申請に関する情報や手続きの簡略化」「6.休暇取得中の派遣等による人材の補填」「7.本事業終了後も学院による代替教員支援制度の継続」があった。これらの課題に対する取り組みを進めることにより、ワークライフバランスがとれた環境が整い「学院の未来」と「教職員の幸せ」の調和につながると考えられた。報告を全教職員に配布し報告する。 中村明美　中尾賀要子　竹内美穂　大山冨美子　吉川真弓
14.コミュニケーション技術/生活支援技術 Ⅰ・Ⅱ	共	2014年1月	法律文化社	編者 （再掲ため略）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				
1.女子大学生のキャリア形成支援に用いるキャリア選択自己効力感尺度の開発	共	2024年6月24日	武庫川女子大学女性研究リーダー育成推進センター「架橋横断的重点共同研究・グローバル共同研究支援」	研究代表者:中村明美 研究分担者:内田正博 松本裕史
2.見守りネットワークによる単身者等への緊急時対応に関する研究	共	2015年4月	平成27年から 30年度　科学研究費補助金（基盤研究(C)）(研究課題番号15K03917)	平成27年から30年度　科学研究費補助金（基盤研究(C)）採択 研究課題「退院支援における患者参加の規定要因に関する質的研究（研究課題番号24530700）」研究代表者：杉崎千洋　研究分担者：中村明美　金子努　小野達也他

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2023年4月から現在に至る	宝塚市男女共同参画推進審議会会長
2.2022年1月から2023年1月	日本保健福祉学会第35回日本保健福祉学会学術集会　大会運営委員（龍谷大学に於ける）
3.2019年4月から現在に至る	日本仏教福祉学会会員
4.2018年4月から2023年3月	宝塚市男女共同参画推進審議会委員
5.2018年から現在に至る	京都府社会福祉審議会委員
6.2017年1月から2017年7月	一般社団法人第15回日本手話通訳学会　実行委員　（武庫川女子大学に於ける）
7.2012年4月から現在に至る	日本公衆衛生学会会員
8.2011年8月から2013年3月	日本乳幼児教育学会第22回大会実行委員　（武庫川女子大学に於ける）
9.2007年1月から2008年3月	近畿ブロック保育士養成校協議会協会　第８回兵庫保育実習研究懇談会　運営委員（武庫川女子大学に於ける）
10.2002年2月から2004年3月	介護福祉国家試験実技試験委員
11.2000年10月から現在に至る	日本医療社会福祉学会会員
12.2000年から現在に至る	日本法政学会会員
13.1996年9月から現在に至る	日本社会保障法学会会員
14.1996年7月から現在に至る	日本社会福祉学会会員